

路地百選推薦書

推薦者氏名：鈴木 隆男

推薦する路地（のまち）の名称	人情深川ご利益通り
所在地	江東区富岡一丁目

【推薦する理由（路地のよいところ）】

メトロ東西線門前仲町駅の1番出口を出ると、成田山新勝寺の東京別院深川不動堂の赤い大鳥居があり、そこが人情深川ご利益通りの入口になる。わずか150メートルほどの参道に何とも縁起のいい愛称がついているが、元の名称は、深川仲見世通りで、深川不動堂の参道に発展した町ある。

千葉県・成田山新勝寺の東京別院深川不動堂が「深川といえば人情、お不動様のご利益で栄えるように」と願いを込めて名付けたという。そのお不動さんまでの通りの両側には飲食店、和菓子屋、物販店など40軒が連ね、参拝客はもとより地元客が絶え間ない。毎月1日、15日、28日には縁日も立ち、さらに賑わいを増す。

【写真添付】



上：不動堂山門
右：不動堂から見た通り
左上：通りから見た不動堂
左：縁日の様子



路地	面積	約	h a	路地の延長	約	m
のまちの成り立ち、特色等の概要		<p>深川を中心となる富岡八幡宮は、寛永元年（1624）に創建された。僧長盛が八幡神像を祀った祠が富岡八幡宮の始まりという。富岡八幡宮への船での参拝客が増え、遠浅の海が次第に埋め立てられ仲通り沿いに富岡八幡宮の別当永代時の門前町として発展した。</p> <p>深川不動堂は、元禄16年（1703年）「江戸でご本尊を拝みたい」という江戸町民の願いで実現した成田山新勝寺の永代寺に出張開帳したのが始まりとされる。成田から300人もの行列が1週間かけてご本尊を運んだことから、成田山新勝寺の東京別院となった。実際の不動堂が作られたのは明治14年（1881年）と新しい。</p>				

※路地のまちの概要は記入できる範囲で結構です。それぞれの枠の大きさは各自で調整願います。